

日本とちょっと違うよ - 通訳者よもやま話 - Vol.11 中国語担当 後藤さん

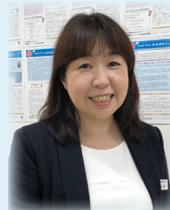
私在家電メーカーで勤務していた1990年代、中国では映像を記録したVCD（ビデオCD）なるものが一般家庭に普及し、特にカラオケのVCDが大人気でした。当時、ビデオデッキやVCDを再生するプレーヤーが大流行し、中国の国内メーカーや韓国のメーカーも次々と生産に乗り出していました。中国も国家として、日本の技術を取り入れて国内メーカーの生産を後押しするようなプロジェクトを進めており、大きな盛り上がりを見せていました。

当時、中国へ出張して、ビデオデッキの販売促進キャンペーンのお手伝いをしたことがあり、家電売り場でマイクを持ってカラオケを歌ったりもしました。私が中国語で歌うと、デュエットしてほしいと中国人が並び出し、私は少し得意げに。ところが、歌好きの中国人のお客さんが一人で延々と歌い出し、大勢押し寄せていた人たちは波が引いたようになくなり、上司と大慌てしたこともありました。

また、初めて中国の街中で公衆トイレに入ったときは、ドアも仕切りもなく、みんな並んで座っている光景にびっくりしたこともあり。おばさんが、「隣空いているよ！」と言わんばかりに、にっこり微笑んでくれます。しゃがもうとしたら、「そこに荷物かけるところあるよ！」と私の背中中のリュックを指さします。周りの人もにこにこして、なんとも和やかな雰囲気でした。

立派な和式の便器があるところでも扉がないのが普通でした。ある会社では、離れのようなところに掘っ立て小屋があり、それがトイレでした。床に穴だけ開いています。外はのどかな世界で、その開放感が妙に心地よく感じました。

懐かしい20数年前に思いを馳せてみました。



当時のVCD（ビデオCD）

～「干支の話」～

通訳センターで干支のお話が出ました。
「英語圏にも干支はあるの？」

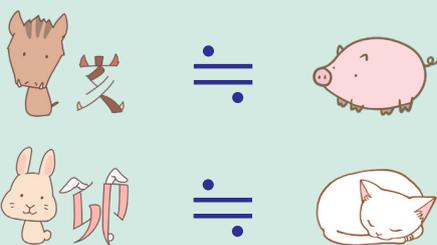
英語の通訳者「“Chinese Zodiac”とか言うけど…
あまり話題には上らないね。」

それを受けた中国語の通訳者「干支は十干十二支（じっかんじゅうにし）という中国発祥の考え方ですよ。でも本場では“イノシシ年”が“ブタ年”なんですよ。」

するとベトナム語の通訳者「ベトナムでは今年（ウサギ年）は“ネコ年”ですよ。」

一同「エーッ！」

ベトナムではウサギになじみがないからだそうです 😊



今月のピックアップ

「ベトナム語の人称代名詞」

今回はベトナム語のお話です。医療通訳の講義では基礎として「一人称で通訳する」と教えられますが、ベトナム語の通訳者によると、言語習慣として、そもそも一人称や二人称が多数存在して年齢や性別で呼び方が異なり、「年上」と言っても「兄・姉」ほどなのか、「親の世代くらい」かで、人称代名詞を使い分けて会話するそうです。

例えば、50代の医師と60代の女性患者さんの会話を20代の通訳者が担当するとします。「あなたは今まで手術を受けたことがありますか」という医師の言葉を、一人称で訳すなら「あなた」のところを医師と患者の年齢差を考慮して、「Chi（姉）」で呼ぶことになりませんが、通訳者からすると、「Co/Bac（叔母）」と呼ぶところを「Chi（姉）」で呼ぶのは礼儀として相応しくないと感じてしまいます。

言語の問題だけでなく、社会通念としてベトナムでは医師や教師などは社会的に特別な立場を持っており、とても尊敬される職業であるため、通訳者は患者さんに対して、自分が医師のようにそのまま母国語で伝えることは何となく恐れ多く、心理的に難しく感じるとのこと。「一人称で通訳」を心がけながらも、患者さんが分かりやすいように表現を工夫してスムーズな通訳になるよう努めているそうです。

